



イラン：スイス・ジュネーブでの P5+1 との協議（10月15～16日）(2)

10月15～16日、ジュネーブでイランと P5+1 との協議が実施された。

1. 15日、第一セッション終了後のアラグチー外務次官発言（15日付イラン国営通信）

- ・我々が提案の中で提示した共通目標は、ウラン濃縮を含む平和的な原子力エネルギー利用のためのイランの権利の保証と、同原子力計画が平和的本質を有することに関する確証である。
- ・その目標は次の道によって実現可能である；
 - (1) 平和目的の原子力エネルギーの開発・研究・権利・利用のためのイランの権利の実施
 - (2) IAEA の検証措置の活用
 - (3) イランの権利の実施における国際社会の協力
 - (4) 一方的および多方面の制裁の完全な解除
 - (5) 共通の懸念と関心分野における協力
- ・最初の段階は次を含む。これは6ヵ月にわたるものとなる；
 - (1) 相互的およびバランスの取れた形での双方の信頼の再構築
 - (2) 雰囲気壊しうる措置や事態の悪化の阻止
 - (3) 双方の緊急の懸念の提示
 - (4) 対話を通じた対立の解消
 - (5) 合意の即時実施
- ・最終段階の特徴は次の通り；
 - (1) 最も重要な信頼醸成措置としての最高指導者のファトワーの活用
 - (2) イランによるウラン濃縮の継続
 - (3) イランによる研究炉を含む原子力関連施設の保有
 - (4) 双方の平和的な原子力協力
 - (5) 透明性と IAEA の査察
 - (6) 国連安保理による、また、一方的、多方面の全ての制裁の解除
 - (7) 最終段階の全体がタイム・テーブルを有すること
- ・セッションの雰囲気は前向きなものであり、P5+1 の初期的反応も前向きなものであった。彼らはイラン側の強調的精神と協議に向けた真剣さを歓迎した。
- ・イラン側の提案に関する協議は、少なくとも今後、何度か行われる必要がある。今回の協議は、ほとんどイラン側の提案の提示に費やされる。

2. シャーマン米國務次官とアラグチー外務次官との会談

イランの核交渉で米代表を務めるシャーマン國務次官とアラグチー外務次官は15日夜、ジュネーブで約1時間会談した。イランが同日の協議で示した提案について、個別に細部を確認し合ったと見られる。米高官は「有益な会談だった。16日の協議が楽しみだ」と述べた。